



気になる子どもの支援に係る 保護者・若手保育者への対応

本時は、保護者や若手保育者の対応に関係の深い事例を通して進めていきます。

皆さんのこれまでの経験と重ね合わせながら考えを広め・深めていただけたら幸いです。



別府大学・短期大学部
非常勤講師 雫石 弘文

保護者の心情

・就学前までの子どもの保護者は、我が子の発達を周囲の子どもの成長と比較して見てしまう。特に気になることがある場合や第一子の場合は、園に対して子どもの気持ちより自分の思いが優先された要望が多くなることが多い。

若手保育者の現状

・経験の少ない若手保育士は、言うことをよく聞く子どもに目が向き、自分の思い通りの行動をしない子どもへの愛情に偏りが出る。特に、特別支援の必要な子どもに対して叱ることが多くなり、対応に混乱していることが多い。



保護者へも若手保育者へも園全体で支援することが必要。そのために先輩保育者の役割は重要で、仕事量は増えるが結果的に働きやすい環境につながる。

保護者対応のポイント



若手保育士へのアドバイスでもあると同時に誰もが気をつけることです。

- ① 保護者は自分の思いを聞いてほしい。急いで結論を言っても納得しない。まず、じっくりと話を聞いて受容・共感することがスタート。
※その場の軽い判断で早急に結論付けても納得しないことが多い。

- ② 保護者が何を求めているのかを言葉の端々から読み取る。
※話の切れ目切れ目で保護者の思いを「〇〇なんですね」と整理・確認しながら、保護者の真意を見極めていく。自分の思考の整理にもなる。

- ③ 子どもに対する相談内容の場合、子どもの行動だけでなく、そのときの子どもの気持ち（背景）を分けて考えてみるように導いていく。

①

保護者からの障がいの告知の質問

Q. 我が子が「発達障がい」という診断されました。障がいのことを本人に伝えた方がよいのでしょうか？

また、伝える場合は「いつ、だれが、どのように」説明するのがよいのでしょうか？



子どもへの告知は、家庭や学級等の様々な条件から賛否は分かります。また、その方法も慎重に行わないと大事に至ることもあります。

しかし、子ども本人が何も知らずに苦しんだり、逆に周囲の人を困らせたりしている場合は、タイミングを見極めて告知する必要があります。

【告知のポイント】

① タイミングはいつか ② 誰が告知するのがよいか ③ どのように説明するのが効果的か



告知のポイント①



①-1 望ましいタイミング

※本人が自分のことについて疑問を感じるようになったとき

※就学や進学時に、特別支援学級や通級指導教室の利用の是非を本人と話し合うときはよいタイミング

◎子ども本人の困りの原因や今後の取り組む必要のあることを話すことが大切で、診断名を告げて子どもは何もわからない。

①-2 避けた方がよいタイミング

※いじめにあったときや精神的に落ち込んでいるとき

⇒この場合は、「障がいがあるからだ」と自分や親を否定するネガティブ思考になってしまい、精神状態をさらに悪化させてしまう可能性がある。

告知のポイント②③



② 誰が告知するか

※本人と良好な関係が築けている人、本人が信頼している人がよい

(例) 医師、相談員等の専門的知識や多くのケースを対応してきた人。

専門家からの話を聞いた後に、保護者が我が子の特性や状況に応じて柔らかく話すのも効果的。専門家と保護者とのチームワーク。

③ どのように説明するのがよいか

※年齢や理解度に応じて、本人がわかる言葉で説明する

(例) 年齢が低い場合は、発達障害の子どもが出てくる絵本やイラスト等を使うのも効果がある。

※必ず、障がい特性のプラスの側面とマイナスの側面の両方について伝える。マイナスの側面については具体的な対処の方法も話し合えるとよい。相談者は、保護者の意向を尊重して保護者をしっかりと支える。

新任教員の困りへの対応

②

Q. 保護者から「子どもが園でトラブルが多かったり、忘れ物が多かったりするのには、担任の先生の配慮が足りない。もっとしっかりと子どもを見てほしい」と言われました。どのように対応すればよいのでしょうか？

- 子どもの成長にとって**保護者と担任が理解し合う**ことが最も大切。
- 保護者の要望はしっかり聞いて、自分に足りない部分はなかったかを一度振り返ることは必要。**※要望に対する謙虚な姿勢を!!**
- 保護者の「**子どもの困りが出ている内容**」と「**支援してほしい内容**」を整理していくと対応策が見えてくる。



対応のポイント①

- 「**子どもの障がい特性**」と「**環境**」との関係から見ていく。
(例) 一つのこと集中すると他のことが抜けて忘れ物をしてしまう場合、「**注意の欠如**」が起因していることなので、**声掛けのタイミング・確認、持ち帰るものの置き場等**について保護者とともに検討する。
※寄り添うことで保護者も納得し、要望のトーンが徐々に下がる。

対応のポイント②



- 園が取り組んでいることと家庭で取り組んでいることとの違いを整理し、園でも取り入れられることはないか考えてみる。
 - 家庭でうまくいっていることを話してもらい、園でできる可能な支援を提示する。
 - 家庭では子どもと一対一だが、園では一対複数ということも念頭に置いて無理のない支援方法を検討していく。
- (例) 家庭で持っていくものを紙に書いて毎朝ルーティーン化している場合、園でもそのことが活用できないか考えてみる。
- ※該当の子の支援に加え、他の子どもにも同様に必要な支援になることも多い。

保護者対応をする場合、保護者の不満等を十分に聞いたうえで、ポイント①②について整理していくと園と家庭とのトラブルの解消につながる。

③

誰もが気をつける必要がある保護者からの質問

Q. 友達とのトラブルが絶えません。「クラスの他の子に我子の障がいについて知ってもらう機会を設けると、友だちの理解が得られると思うのですがどうなのでしょうか?」と保護者から問われました。どう応えたらよいのでしょうか。

ポイント①

- 子ども本人の気持ちを確認しないで、担任や保護者が勝手に友だちに伝えるのは止めた方がよい。
- 子どもへの告知の有無、子どもの年齢、担任の理解度、学級の雰囲気等を考慮して検討する。子どもが小学校低学年以前の場合は、障がい名の提示は避け、「**子どもの困り**」「**困った時に助けてほしいこと**」等を具体的に**説明**すると、子どもたちの理解を得られやすい。

周囲の子どもたちが**協力より我慢を強要**されていると思わないように**優しくお願いの形**が望ましい。**※困っている友達に手を差し伸べる姿勢!!**

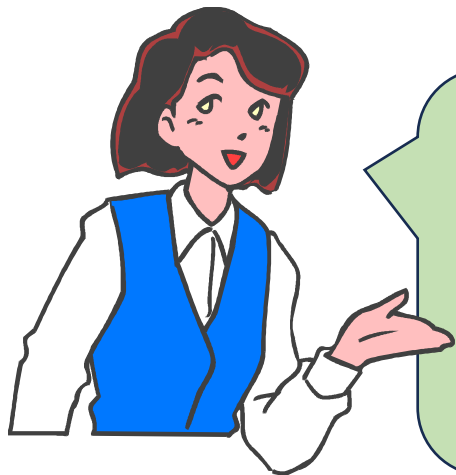
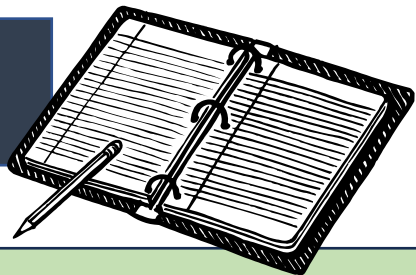
その他のポイント

- カミングアウトは仲の良い友達にする場合、クラス全体にする場合があるので検討するとよい。
- 診断名の伝達だけでは周囲の子どもの理解は得られないので「苦手なこと」に加え「得意なこと」「本人が努力していること」等をしっかりと伝える必要がある。
- カミングアウトをする方法には、本人が話すケース、担任や保護者が話すケース、本人がいる・いないという様々なケースがある。

※担任だけで説明して、それが周囲の子ども等にうまく伝わらなかった場合、担任と当該の保護者との関係がねじれてしまうことがあるため、可能な限り保護者が説明して担任が補うという協力体制が望ましい。



対応に迷う事例



これからの3つの事例は私が保育者さんから何度も質問されたノンフィクション事例です。年齢や経験を問わずどう対応すればよいか迷います。経験の浅い保育士さんへの助言や保護者さんへの対応のポイントを考えていきます。

① 保護者の不安を軽減する助言

(例) 自閉症 (自傷・他害行為)

② 保護者の過度な子どもへの指導

(例) 知的障がい・ダウン症

③ 園では何も話さない子の支援

(例) 場面緘黙

① 保護者の不安を軽減する助言

(例) 自閉症 (自傷・他害行為)

Q1：他の子に噛みつく、奇声を上げて飛び出す、自傷他害行為がある3歳児。保育者は自閉症を疑っている。保護者が、「うちの子は何か問題がありますか」「頭がおかしいですか」「病院に行った方がよいですか」などと不安げに尋ねてくる。保護者に極端なダメージをあたえず、前向きになれる返答や助言は



〔検討のポイント〕

- ① 子どもの状態に不安になっている保護者に対して、**どのように園の様子を伝える**とよいでしょうか。
- ② 保育者は自閉症を疑っているが、保護者に対して**何らかの助言**をするとしたらどのようなことがあるか。

自閉スペクトラム症の主な特性

共通理解のために自閉症の特性を確認しておきます。

特性① 対人関係（社会性）の障がい

- 他人の感情や考えを直感的に察するのが苦手、無頓着
- 決まりやルールの理解が極端に未熟



特性② コミュニケーションの障がい

友だちを引っかく・叩く行為は負のコミュニケーション

特性③ 想像力やこだわりの障がい

過去にこだわり、先のことが想像できずに不安になる

保護者の不安を軽減する効果的な助言



- 前提としては、問題行動を毎日伝えないこと。何か問題のあるようなことでも「こんな支援をしたらこんな様子でした」と支援内容と子どもの様子を併せて伝えること。
- ⇒ 保育者自身が積極的に支援を工夫するようになると共に、保護者も支援の仕方を少しずつでも理解して前向きになる可能性は大きい。

- 「診断をされると支援が明確になる」が、保護者の心情を考えて急ぐのではなく「自分は、または、この園ではどんな対応が可能か」について考えることが優先されるべき。
- 特に、不安になっている保護者には、病院受診や訓練等への誘いよりも、対応方法を工夫して保護者に示すことが効果的。
- こういう保育者の姿勢は必ず保護者に伝わり、よい方向に向かう。
⇒ タイミングを見て訓練期間や病院受診を一緒に検討するのも可!!

② 保護者の過度な子どもへの指導

知的障がいやダウン症等

Q2：同じ年齢の子どもと同じことができるようにと言う思いが強く「早くしなさい」「自分でできるでしょ」と強い指示をする保護者がいる。お箸での食事ができないので、スプーンからと段階を踏んだ取り組みをしようと思うのですが、「できますから他の子と同じように箸で食べさせて…」と言われるが本人は食べられず泣くばかり。どうしたらよいのだろうか。

- ① スプーンを使わせること、お箸を使わせることに対してどのように考えたらよいでしょうか。
- ② 子どもへの要求が強い保護者に対して、どのような対応が必要でしょうか。



保護者の過度な子どもへの指導



- スプーンからの段階的な取り組みはとても望ましい。家で個別に指導することは否定できないが、集団の食事で本人が極端に負担になることはよいことではない。
- その子に合う「練習用のお箸」を遊びの中に取り入れたり、食事時間に短時間だけ取組んだりするのはよい。
- 食事は訓練でなく楽しいものであることを優先したい。

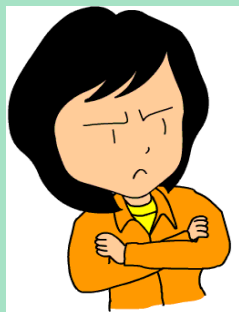


- 少しでも周囲の子どもに近づけようと焦る保護者は多い。
- 保護者の気持ちは受け止めた上で、無理のない支援を計画的にしていくことを伝えて理解してもらう必要がある。
- 子どもの特性や発達段階に合わない無理な支援から二次的な障がいを生じることにならないよう、保育者としての上手な助言が必要となる。腕の見せ所です。

肯定語を使って言葉かけをしよう

知的障がいや発達障がいの特性
自分したいようにする。相手の気
持ちは察するのが極端に苦手

- してほしい行動を**肯定語**で伝える
- 場面毎にどうすると良いのか、**理由**をしっかりと理解させる取組が必要



「スプーンだけ使うのはダメ」

「食べるときは何を使うんだっ
たかな」

...と言ってもどうすればよい
かわからない

本人の気持ちをくみ取り、状
況を把握した上で優しく言葉
をかける

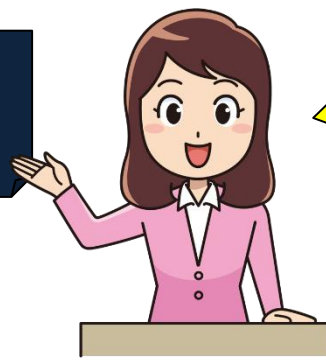


「このおかずはお箸で食べてみよう」

「お箸で食べられたね。お箸の方が食べやすいおか
ずもあるね」

一つ一つの場面で本人の**自尊心**を傷つけないように**配慮**しながら、言葉の使い方や行動の仕方を**肯定的に**教えていくことが大切。また、最初に**約束**することも忘れずに!!

子どものほめ方、叱り方



法に触れる行為、性的に不快な行為、危険な行為、公共の場で迷惑になる行為は、子どもに応じた指導を徹底する。時には強く叱る(諭す)ことも必要。

ほめ方

○努力している点や身につけてほしい点を**意図的に**ほめる

- 何でも食べて偉いね
- スプーンで食べるの上手だね
- お箸で一つ食べられたね
- 背中が伸びていい姿勢だね

※**当たり前**を**当たり前**と捉えずに、**当たり前**なときにほめて意識を強化する。

叱り方

- 叱る相手との信頼関係**ができていることが叱る前の大前提。
 - 叱られることに悲観的
 - 叱らなければいけない課題は、事前に本人と約束をしておく。
- 興奮しているとき叱るのは禁物**。
落ち着くのを待って、状況をしっかり整理しながら聞いてから悪い理由を具体的に諭す。

③ 園では何も話さない子の支援

Q3. 5歳児のAちゃんは、活動には参加するのですが、何を聞いてもYes・Noの意思表示がやっとでそれ以上は話しません。お母さんからは、「家では親ともきょうだいとも普通にお話しできます」「園で何かあったのでは…」と言われました。みんなの前で話をする場面を作るなど、いろいろと試してみたのですが、効果がありません。家庭に原因があるのか、園に原因があるのかさっぱりわからず、どうしたらよいのか困っています。



- ① Aちゃんの状態をどうとらえたらよいのでしょうか？
- ② 今後のAちゃんと保護者への対応を考えてみましょう。



場面緘黙を疑ってみてもよさそうです

場面緘黙とは

- 言葉の発達は正常なのに、特定の場面(園や学校)で全く話せないでいる状態を指している。
- 決して一時的なものではなく、その状態はかなり長く続く。特定の場面によるものがほとんどで、周囲の状況とか相手にもよるため、選択性かん黙(場面緘黙)という。
- 200~300人に1人か2人で、どちらかということと女子に多くみられる。この症状は就学前から少しずつ現れはじめて、たいがい就学後にその症状が少しずつ強まる。

保護者の養育の偏りとか園・学校のまずい 応ということが原因でしょうか？



- その影響を全く否定することはできないので、振り返ることは必要。まずい対応には、園での厳しすぎる対応や家庭での虐待等がある。ただし、虐待と場面かん黙の子どもの状態は質的に違う。
- 保護者も担任も特に問題がなくても、この状態は起こり得るため、原因がつかめない場合が多いというのが現在の考え。

原因を探ろうと、保護者も保育者も躍起になって子どもを問い詰めることで、さらに悪化させていく。子ども自身も原因がわからない。

自信を付けさせようと●●会の司会をさせたり、意図的にみんなの前で話させたりするのは逆効果。NG!!



今後の対応

- 自分のせいかと悩まず、保護者や対象の子どもとの信頼関係を築き
おおらかに対応すること。⇒焦ることが一番いけない。

- 多くの選択性かん黙児が小学校卒業を機に話し出すという知識を
持っておく。高等学校入学後に普通に話し出すこともある。
⇒環境が変わることがきっかけになる
⇒筆談やワープロを利用したやりとりも効果がある場合が多い。

- 支え続けることが、本人のかん黙から脱するエネルギーになる

これまで私の経験で効果があったこと



- 朝や帰りの挨拶は、「おはよう」等と言いながらさりげなくハイタッチをする。言葉での返事を強く求めない。
 - 意思是「Aがいい?Bがいい?」等の選択肢で質問する。個別で対応するときには本人の様子を見て「どうする?」と言うHOWの質問をしてみ様子を見る。
 - 家では普通に話せるから、保護者の理解と連携のもとに、電話で話してみる。
 - 本人がゲームなどが好きな場合、本人の了解のもと家庭を訪れて一緒にゲームをしてみる。(自然な会話ができる)
 - メール(LINE)等でやり取りをしてみる。
 - 仲の良い友達を含めた小グループでの活動を仕組む。
- ※園の他の子どもに対して、先生がAちゃんに自然に接している様子を見せる。
あえて難しい説明はしない。
- ※常に、保護者と連携を取り、信頼関係を築いていく。支援はゆっくりと!!

最後に

若手保育士へのアドバイス（例）

まず具体的な支援を示すこと。考えさせるのはその後

- ① 経験の少ない保育者は、いろんな事案への対処が少ないため、「どうすればよいか考えて」等の抽象的な投げかけでは考えきれない。
⇒まず、安心感を与える肯定的な声かけを土台にし、具体的に「どうすればよいか」を示し、その結果を一緒に確認することで少しずつ支援方法の質が深まる。

一緒に考えてくれるという姿勢は、心細さを軽減する

- ② 対応の足りなさを叱責してもやる気を奮起する保育者は少ない。
⇒「良い点＋改善点＋提案」の順で伝え、事例相談会などの継続的な支援体制を整えることが効果的。失敗は責めず、「一緒に考えよう」「こうしてみたらどうかな」という姿勢で対応するとその後も頼ってくる。子ども理解や保育観は、先輩の実践を見せながら少しずつ共有する。一度には変わらない。

具体的な行動を拾って認める

- ③ 子どもへの良い支援には、**その場で具体的にほめて強化**する。（例）「今のよ
うにやってみせるとAちゃんがどうすればよいかよくわかるよね」
また、いきなり口出しをするのではなく、**子どもの姿・影響を共有してから**
「次はこんなふうにやってみたらどうかな」と**代案を示す進め方**が納得しやすい。

今週は何に焦点を当てて指導・援助するかを確認する

- ④ 若手保育者は一日のスケジュールをこなすことに意識が向きすぎ、子ども個々の課題の具体的な取り組みが一貫していない
⇒特別な支援が必要な子どもの**「個別の指導計画」**や**「指導案」**「記録」を見せて、**全員や特に気になる子どもの日々の目標に応じた支援**について提案する。

若手保育士には、計画的な指導とサポートで数ヶ月・数年後の成長を期待しましょう。たたかれ強い若者は少なくなったが、彼らのアイデアは結構斬新。